



## さまざまな災害

今年の8・9月は12個の台風が発生し、そのうち8つは日本に上陸もしくは日本付近を通過しました。そろそろ台風シーズンは終盤ですが、台風シーズンが終わるこの時期に、さまざまな災害について考えてみましょう。

**地震=広い屋外へ** 地震はいつ来るか全く予想ができません。対策としては起こってしまった時の被害を最小化するということになります。具体的には倒れやすいものの固定、戸棚の扉が不意に開かないようなものに変える、断水・停電に備えて備蓄品を準備しておくなどです。大きな揺れを感じたらすぐに屋外へ避難します。



**火災=初期消火+119番** 火災は失火やもらい火、放火などが考えられますが、放火やもらい火の対策としては家の周囲や外から見えるところに燃えやすい物を置かないこと。また、失火対策は、火を扱うキッチンの整理整頓、暖房器具の周りの整理整頓、コンセントのホコリなどの定期的な点検などです。目の前で火が出た場合は初期消火をしますが、初期消火に失敗した場合は無理をせず、すぐに大声で助けを呼び、119番通報をします。避難の際は、煙を吸わないよう、姿勢を低くして走らずに屋外を目指します。



**台風・豪雨・洪水=早めの避難** 台風や豪雨災害はある程度予測できる災害のひとつです。6月号でもご紹介したタイムラインを作成しておくことで、避難のタイミングを逃したり、ためらったりしないことが大切です。避難先での数日間の滞在に耐える備蓄品も準備しておいた方がよいです。



**竜巻=頑丈な建物へ** 竜巻は気象庁の「ナウキャスト」で発生確度を知ることができますし、自治体からの竜巻注意情報通知サービスに登録してスマートフォン等に通知が来るように設定しておくことある程度予測できます。もし、近くに竜巻が発生したときには、すぐに頑丈な室内に入り、カーテンを閉め、窓の近くから離れて机の下等に隠れてガラスの飛散や屋根の破損に気をつけます。



**津波=高いところへ** 津波は寄せては返す普通の波ではなく、急激に海面が上昇する（過去最大は約40メートル）ことで、海から内陸方面に一気に大量の水が流れ込み、その後すべてを巻き込んで海に返っていく現象です。高台避難が原則ですが、その時間がない場合は頑丈で高い建物を目指し、垂直避難をします。津波警報が出てからは一刻を争うので、ためらわず、探し物をせず、すぐに逃げるのが大切です。



いくつかの災害について書きましたが、すべての災害に対する最大の対策は“心構え”です。災害はいつでもどこでも自分にも起こりうると受け止めることから始めましょう。

裏面は、湧心館高校、熊本支援学校、出水中学校、出水南小学校の隣接4校で取り決めた災害発生時の学校関係者および保護者の車の順路です。学校への避難や生徒引き渡しの際は図の流れに従ってくださいますようお願いいたします。

### 災害発生時(生徒引き渡し時、避難所開設時)の学校関係者・保護者の車両の動線



- ※大規模災害時、湧心館高校・出水中学校・出水南小学校は地域の避難所、熊本支援学校は子ども福祉避難所（障がいのある子どもとご家族を中心とした避難所）となっています。
- ※引き渡し時には4校周辺に1500台程度の車両が入る予定で、混雑が予想されます。
- ※すべての学校で、車の進入は出水ふれあい通り側からになります。八王寺通り側からの進入はご遠慮ください。
- ※歩行や自転車での通行については、取り決めはありません。
- ※災害発生時には、4校でこのようなルートを使わせていただければと思います。学校関係者・児童生徒の保護者の車両をできるだけ一方通行にすることで、地域の皆様にご迷惑にならないようにしていきたいと思ひます。ご承知おきください。